

# さんむのふるさと散歩

NO.46



平成23年度企画展示左千夫『春の潮』展を7月23日(土)から11月6日(日)まで実施します。

『春の潮』は『隣の嫁』の続編としてホトトギス(明治41年4月)に掲載されました。

『春の潮』の説明の前に『隣の嫁』(ホトトギス明治41年1月掲載)のあらすじをお話します。

主人公の省作が隣の家に嫁いできたおとよと恋仲になり、それがうわさとなったために、省作は深田へ婿養子に行き家を出て、おとよも離縁



浪切不動尊

して隣の家を出て実家に戻ると言うストーリーです。

『春の潮』はそんな二人の恋愛の顛末を表記したもので、省作とおとよが成東く雄蛇ヶ池へ行く道程を春の風景と景観(浪切不動尊・妙宣寺・八鶴湖・雄蛇ヶ池)を表現した作品です。



妙宣寺

伊藤左千夫自身は明治14(1881)年に政治家を志して上京し、明治法律学校(現在の明治大学)に入学するが、眼病のため9月に退学、成東に戻り、実家で静養し、家の手伝いをして暮らしていた経験があり、悲痛な日々を過ごしていました。

この頃の経験を『隣の嫁』『春の潮』の中に表記したと思います。

『春の潮』の文中に「省作が永く眼を煩った時などには、母は不動尊に塩物断ち(神仏の祈願のためある期間塩ものをたつ)の心願まで：・前述のとおり左千夫も眼病を患っていたことから、省作は左千夫なのかもしれませんね。



八鶴湖

今回の企画展では省作・おとよが歩んだ道程のゆかりの場所や文化財・桜の風景を展示いたします。(展示期間は夏から秋です)